

第3章 教育訓練を通じた「安全文化」の醸成

第2章では、「安全文化」の形成に向けて、組織管理者の取り組みの必要性について述べてきた。この章では「安全文化」を醸成するための具体的な訓練手法について、その問題点や改善策も含めて述べていくこととする。

1 危険予知訓練（KYT）の問題点とその改善策

（1）KYTとは

消防活動や訓練・演練等を描いたイラストシート（訓練シート）を使って、消防活動や訓練・演練等の中に潜む危険要因とそれが引き起こす現象を、小隊で話し合い、考え合い、分かり合って危険ポイントや重点実施項目を唱和したり、指差呼称で確認したりして行動する前に安全を先取りする訓練であり、大規模消防本部を中心に既に取り入れられている訓練方法である。

この訓練は、小隊単位などの5人前後の小グループで実施するのが望ましいものであり、通常の勤務形態の中で容易に実施可能な技法である。また、この訓練は、消防活動や訓練・演習の場において「ヒヤリ」、「ハット」した事例や、消防活動や訓練・演習に潜む数限りない危険要因等をとらえて、その危険性を正しく認識できるよう感受性を高め、安全先取りの対応を身につけることが狙いとなる。

（2）KYTの問題点

マンネリ化

毎当直、同じ事の繰り返しで新鮮味がなく、飽きてしまう。

階級制度を要因とする問題、職務ごとの教育ノウハウの不足

階級上位者の発言により結論づけられてしまう。また、指揮者、隊長、隊員の職務ごとの教育ができない。

訓練シート（例P28参照）不足

ヒヤリ・ハットの事例不足、絵を描く職員がいない。

（3）KYTの改善策

マンネリ化については、以下のような改善等が考えられる。

- ・ 毎当直でなく、他の訓練と組み合わせ月2回ペースで実施するなど、過度に頻繁に行わないよう工夫する。（死傷事故事例等の緊急事案についてはその都度実施）。
- ・ 基本的な4ラウンド（第1ラウンド：現場把握、第2ラウンド：本質追求、第3ラウンド：対策樹立、第4ラウンド：目標設定）のパターンでの訓練だけでなく、訓練方法を応用して実施する。